

胆沢ダムで試験湛水を開始！

河川課

平成24年12月3日、奥州市胆沢区若柳地内に建設中の胆沢ダムで湛水式を行い、試験湛水を開始しました。

湛水式は、胆沢ダム管理庁舎において、国土交通省東北地方整備局の徳山局長をはじめ、小沢奥州市長や高橋金ヶ崎町長など関係者が出席し行われました。胆沢ダム建設事業の「総仕上げ」に向けた徳山局長の挨拶の後、関係者の代表が操作ボタンを押すと、胆沢川の水を下流に流していた仮排水路トンネルのゲートが下り、試験湛水がスタートしました。

試験湛水は、来年10月までの約11ヶ月間行われ、来春5月には洪水時最高水位356.5mに達する見込みです。その後、最低水位となる304mまで低下させ、ダムや周辺の安全性を確認します。

胆沢ダムは、国内最大級のロックフィルダムで、昭和63年4月に事業着手、平成5年2月には国道397号の付替工事に着手し、平成17年10月から堤体盛土を開始しました。平成20年6月の岩手・宮城内陸地震では堤体等に被害を受けましたが、平成22年5月には堤体積1,350万 m^3 の盛り立てが完了、同年8月には付替国道397号が全線供用開始し、平成25年度内の完成を目指しています。

試験湛水とは、通常のダムの管理に移行する前に、洪水時最高水位以下の範囲内で、貯水位を上昇及び下降させて、ダム堤体、基礎地盤及び貯水池周辺地山等の安全性を確認するために行うものです。



試験湛水開始のボタンを押す関係者



試験湛水を開始し万歳三唱



試験湛水を待つ胆沢ダム堤体



堤体から胆沢平野を望む